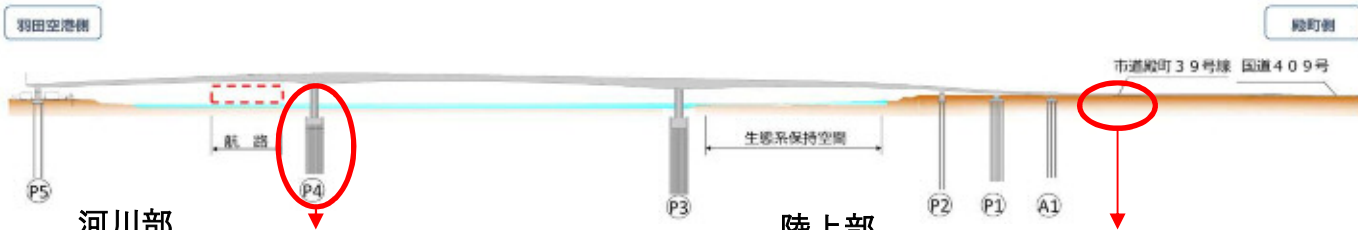




橋りょうの工事に着手

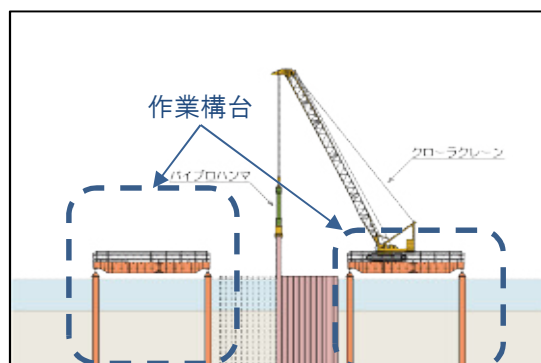
P4橋脚の施工を開始



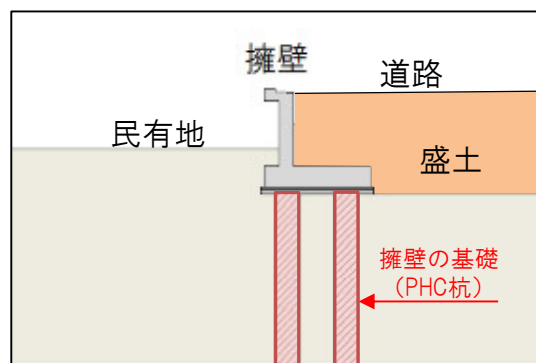
クレーン付台船による作業構台設置状況



杭打ち機による打設状況



作業構台完成イメージ図



擁壁の概要

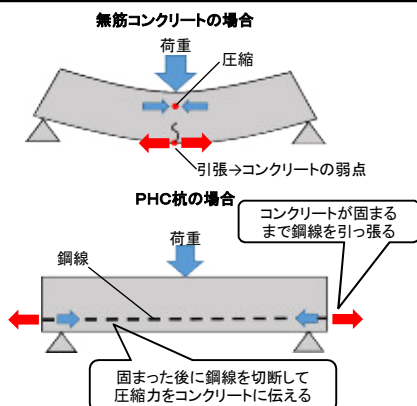
河川部では、昨年10月の台風による多摩川の増水の影響もありましたが、船団を増やすなど急ピッチにしゅんせつ作業を進め、4月上旬に完了する予定です。また、並行して、いよいよ、橋りょうの工事として、橋を支える橋脚（P4）を造るための、作業構台の設置に着手しました。

一方、陸上部では、盛土部の両端を支える擁壁の基礎となるPHC杭※土木豆知識を杭打ち機で地下約50mの固い地盤まで打ち込む作業を行っています。

【土木豆知識①】 PHC杭とは

工場において、コンクリートの中にあらかじめ鋼線に引っ張り力をかけた状態で、遠心力により締め固めて製造された高強度のコンクリート杭です。

コンクリートは引っ張る力に弱い特徴があるため、鋼線の縮もうとする力（圧縮力）をコンクリートに作用させることで、圧縮力にも引張力にも強い杭となります。擁壁などの土木構造物はもちろんのこと、マンションの基礎などにも多く用いられています。



PHC杭全景

多摩川河口の自然環境への配慮

干潟表土を保管 埋戻しに再利用

この工事では、浚渫した干潟を再生する計画ですが、生態系の早期回復を図るため、干潟の生物が住みやすく砂分の多い表土を陸上保管して、工事後の埋戻しの材料として再利用する計画です。干潟表土の採取は、本工事で特別に製作した専用の器具を用いて行っております。

引き続き、多摩川河口の自然環境に配慮しながら工事を進めてまいります。



干潟浚渫船
(クレーン付台船)

クレーン付台船による干潟表土の浚渫状況



干潟表土の採取器具



砂分の多い干潟表土採取状況

【多摩川河口干潟の生き物①(アサリ)】

ここでは、多摩川河口干潟に生息する多様な生き物について、ご紹介していきます。

今回はアサリです。アサリは縄文時代の貝塚からも殻が出現しており、大昔の人々もアサリが好きだったようですね。

アサリの赤ちゃんは、プランクトンの状態で2週間ほど水中を漂っています。そして徐々に水底に降り、砂粒や石などに、「足糸(そくし)」と呼ばれる糸で付着して流されないように頑張っています。その後、足糸は無くなりますが、時々大きくなったアサリでも足糸で石や他の貝などにくっついている個体もあります。

ぜひ、干潟の観察会などで石にくっついているアサリを探してみてくださいはいかがでしょうか。



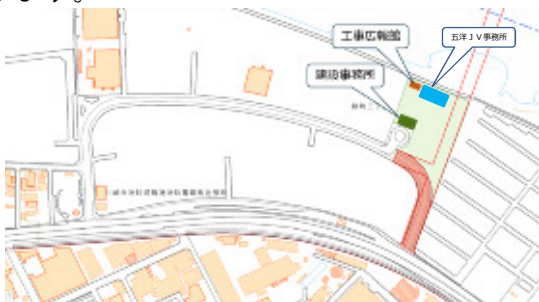
アサリの赤ちゃん

工事広報館をご案内します

事前の連絡によりスタッフが対応します

羽田連絡道路の建設現場には、工事視察会向けに「工事広報館」を設置しております。工事広報館には、完成後イメージした橋の模型や多摩川に生息する生き物、工事方法の説明などを展示しています。また、屋上からは工事状況に加えて、多摩川や羽田空港の雄大な景色が望めます。

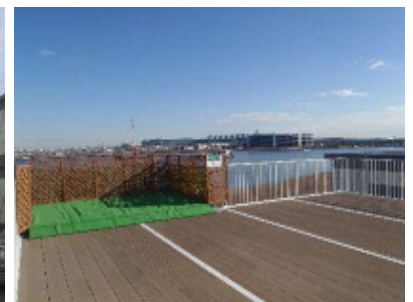
見学をご希望の方は、別添もしくは、下記の川崎市・五洋JVのホームページの中にある「工事広報館見学申込書」に必要な事項をご記入いただき、五洋JV事務所まで直接か、郵送、FAXにて送付願います。ご不明な点につきましては、お電話などを頂きたく存じます。皆様のご見学をお待ちしております。



工事広報館位置図



工事広報館全景



屋上の様子

お問合せ先



川崎市建設緑政局広域道路整備室
羽田連絡道路建設担当

住所：〒210-0821

川崎市川崎区殿町3丁目25-25

電話：044(200)0436

FAX：044(288)1782

<http://www.city.kawasaki.jp/530/page/000>

0097966.html



五洋・日立造船・不動テトラ・横河・
本間・高田共同企業体(五洋JV)

住所：〒210-0821

川崎市川崎区殿町3丁目25-24

電話：044(201)9381

FAX：044(201)9382

<http://www.poc-site.jp/kb/tonomachi/>